

政策的医療の提供内容・実績とそのネットワーク病院の設置目的

労災病院グループのネットワークを通じて、労災疾病等職業に関わる疾病の臨床データ等の収集や研究を行い、医療技術・知見を開発・確立し、地域医療機関に対する予防・治療方法等の普及促進を図る。

労災病院グループ 30病院



臨床現場
(高度・専門的医療の提供)

② 労災疾病等研究
医療技術・知見
の開発・確立

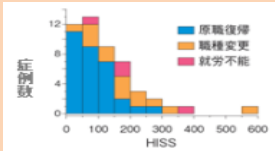
③ 研究成果を
フィードバック

(例)

アスベスト: 収集した症例から中皮腫臨床像を導き出し、鑑別診断法を確立し、適正な診断が可能となった。



四肢切断: 受傷時の重症度スコアを開発した結果、機能回復や職場復帰の予測を可能とした。これにより個人毎の治療計画の作成が可能となった。



① 労災病院の
ネットワークを通じて
職歴を含めた
症例データを収集
・蓄積

症例数22,177例

(H16~H20: 第1期研究)

入院患者の
職業歴等データ

257万件

(S59~H21)

(例)

アスベスト: 診断困難な中皮腫事案について症例を提供

四肢切断: プレス損傷等の手指切断における再接着が可能な症例を提供

依然として多く発生している
労働災害による疾病

職業性外傷
(燕ほか1病院)

せき髄損傷
(中部ほか3病院)

新たな健康問題として
社会問題化している勤労者の疾病

メンタルヘルス
(横浜ほか4病院)

物理的因子による疾患
(九州ほか2病院)

感覚器障害
(大阪)

脳・心臓疾患(過労死)
(東北ほか1病院)

産業中毒
(関西)

筋・骨格系疾患
(関東ほか2病院)

振動障害
(山陰ほか5病院)

働く女性のメディカル・ケア
(和歌山ほか4病院)

粉じん等による呼吸器疾患
(北海道中央ほか4病院)

アスベスト関連疾患
(岡山ほか9病院)

職場復帰のためのリハビリテーション及び勤労者の罹患率の高い疾病の治療と職業の両立支援 (九州ほか15病院)

13分野 19テーマ

研究発表
10, 124件
(H16~H23)
症例検討会
5, 982件
148, 042人
(H17~H23)
研修会等
3, 221件
(H16~H23)

普及

労災指定医療機関・産業医等

地方労災医員
81人
労災保険診療
費審査委員
33人
地方じん肺
診査医
13人
(H23年度実績)

行政

協力

労災認定に必要な意見書の
作成
28, 137件
(H16~H23)

職歴等データベース化・活用

データベース

- サマリー情報 4,869,051件(S59~H21)
(患者基本情報含む)
- 職歴データ 2,569,430件(S59~H21)
(職業歴調査票)
- ※参考 13分野研究に関連する患者延べ数(H16~H22)
 - ・石綿関連疾患 54,091名
 - ・うつ病 807,122名
 - ・職業性皮膚疾患 118,080名
 - ・脳疾患 1,526,978名
 - ・心臓疾患 171,738名
 - ・じん肺等 336,877名
 - ・産業中毒 3,019名
 - ・振動障害 124,367名
 - ・腰痛 1,123,673名
 - ・脊髄損傷 384,241名など

活用

病歴と職業歴をリンクさせた
独自のデータベース

労災病院グループ 30病院

- 労災病院グループ 30病院
- ・病床数 13,067床
- ・入院延患者数 3,775,113人/年
- ・外来患者数 27,468.2人/日

事例

アスベスト関連疾患

- ・患者居住地による環境曝露の調査
- ・職業歴(現職及び過去の職業)による作業曝露の調査
- ・初期曝露から発症までの期間の検証

過労死

- ・勤務形態からの生活習慣病との関連を調査
- ・職業歴等調査により1ヶ月の総労働時間から生活習慣病との関連を調査
- ⇒長時間労働と肥満との関係を解明

メンタルヘルス

- ・職種ごとのメンタル不調者の検証
- ・勤務形態による睡眠障害とうつ病の関連を検証
- ⇒画像解析による客観的評価法の研究開発

被災労働者の早期職場復帰に向けた先導的医療の実践 (職場復帰までを視野に入れた効率的、効果的な医療の提供)

頸髄損傷後、現場仕事の消防士から事務職へ配置転換され、再就職がなかった事例

急性期治療
職業評価

- 背景・現病歴
 - ・ 41歳、男性 第4頸椎脱臼骨折による頸髄損傷、頸椎固定術施術
 - ・ ADLは、食事や車いす駆動以外は、ほぼ全介助状態



家庭復帰に向けた対応

- 家庭復帰に向けて
 - ・ 家庭訪問の実施、試験外泊、家屋改造(バリアフリー)への関与、家族への介助方法の指導

・ 職場復帰へ向けてのリハビリプログラム

職場復帰に向けた対応
(職場訪問・リハビリ)

職場の環境整備

- 職場訪問
 - ・ リハビリスタッフ、本人、職場担当者による職場復帰に向けた環境等の確認、相談

同僚 上司 医師

医師による
職場担当者
への説明

バリアフリー
の確認

デスク周り
の環境整備

- ・ 実際の職務内容、安全性等の確認

職場復帰のためのリハビリ

- ・ 移動手段となる自動車運転の訓練
- ・ パソコン・キーボードの操作訓練
- ・ 座位での作業訓練時間延長の練習
- ・ 職場での体温調整の工夫
- ・ 仕事中の排泄管理の習得など

自動車の運転
練習

コンピュータ
の訓練

職場復帰

●職場復帰
職場の理解と本人等の努力により事務職へ配置転換され再就労

